

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300246		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家 1号館		
所在地	愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字中久田10-7		
自己評価作成日	平成28年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2376300246-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年 9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは151号線沿いでとてもわかりやすい、周辺には商店街・保育園・イベント広場などがあり、とても立地条件の良いところにあります。</p> <p>利用者様の個性が十分発揮できるよう個々の利用者様を十分理解し、大切にします。まずは利用者様が一番・いつも利用者様が中心です。</p> <p>ホームの理念通り利用者様の毎日が、のんびり・ゆったりした生活が出来るよう支援に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者だけでなく職員も地域出身者が多く、自然体で地域との交流が出来ている。会話の中で利用者の昔の思い出を引き出し、『…の人知っている』『…の所知っている』と会話が繋がっている。職員の定着が良く、8割以上が勤続3年以上であり、開設(2003年)以来の職員が5名いる。利用者・家族との付き合いの長い職員が多く、ホームに対しての家族の思いが家族アンケートに表れている。</p> <p>27家族中26家族が回答し、全員がホームの現状を理解し、お任せ的な家族は見当たらない。回答内容も殆どの家族が満足(全項目で93%の方が満足・やや満足)の意思表示をしている。特に顕著なのは自由記述のコメントで、『入居者の家族の状況を理解して柔軟に対応してくれる』『地元ならではの知り合いの方が多くいるので安心感がある』等の称賛の言葉が多く寄せられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちが作った理念「のんびりゆったりと暮らす」そんな理念を元に、まずはゆったりと生活出来るよう共有し実践につなげています。	管理者は理念に基づき、常々『利用者が主体だからゆったりやってね』と指導している。来訪者は『雰囲気のがんびりしている』と評価している。理念は職員に十分周知されている。	『のんびりゆったり』の理念は、ホームに関係する方に理解されている。理念の実践がよりスパイラルアップする為にも、ホームの目標掲げる取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食、地域のイベント等に利用者さんと一緒に出掛け交流している。畑仕事の際に近所の人達と会った時は挨拶を交わしたり会話をしています。	地域のフェスティバル、文化祭、防災訓練等に参加している。地域の方が野菜のおすそ分けをもって来る。出前講座の際にはチラシを配って案内し、地域の方々も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で様々な取り組みや支援等の内容を説明し、理解を頂いている。ホームの新聞「ありのまんま」で活動内容を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の条例により3か月に1回の運営推進会議にて運営状況を報告し、意見を聞きます。また、そこで出た貴重な意見などサービスの向上に努めています。	出席者・開催回数ともに基準をクリアし、参加者から『学校で福祉の学習をしているので、学校とコンタクトをとを取ったら』と前向きな意見も出ている。	参加メンバーとして知見者の参加を促し、会議内容を充実させ、出された意見をホームの課題として受け止めて継続審議し、参加者が納得した結論の出る会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等に協力をしてもらったり、メールなどの利用で密に情報交換をしています。	役場の担当者が運営推進会議に参加しており、ホームの状況は役場窓口でよく理解されている。役場より家族へ送付する資料の中継点になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人体制以外は玄関やユニット間の施錠はしていない。AA課程(施設内研修)で身体拘束について学ぶ機会があり、拘束をしないケアに努めています。	管理者・職員は身体拘束の弊害を十分理解している。利用者個々の外出の癖や傾向を把握して見守りを徹底し、日中は開錠している。見守りの手薄な時に限って施錠する事はある。毎年ホーム内勉強会で『身体拘束』で取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ある内部研修(職員会議等)で、虐待のことは勉強しています。虐待はあってはなりません。防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、内部研修等で学んだり、実際に活用されていた利用者様もおられ、関係者とは連絡を取り合う状況にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が主に携わっていますが、説明を十分行ない理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議に参加して頂いたり、利用者様にも計画作成時等に意見を頂き、運営等に反映しています。	日常の来訪、家族会、運営推進会議等、家族から意見を聞く機会が多くある。家族アンケートには、『相談した事はすぐしてくれる』『訪問時に詳しく説明してくれる』等、全幅の信頼がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議があり、その場で自由に話が出来るような環境作りをして、職員の意見も参考しし、業務等に活かしています。	職員会議が発言の場であり、利用者の対応困難事例を出し、有益な意見をもらって改善につなげている。『風呂入らない利用者』『収集癖のある利用者』等に関して、改善のヒントになる意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には支援を行ない、向上心を持って働けるよう対応を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に12回の内部研修があったり、他市町村等の外部研修にも積極的に参加できるように勧め、いろいろな研修確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村等主催の研修に参加したり、本部での研修にて同業者との交流をし、質の向上をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け関わり支援することで安心が確保され信頼関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く家族との信頼関係は大変大切で初期には特に電話で様子を伝えたりご家族の不安等に対応できるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求めている必要な支援を見極めサービス提供し本人が安心した生活が送れるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で掃除や食器吹き、洗濯物干したたみ等の家事をしてもらったり行事作りの手伝いをしてもらっています。困ったことがあれば教え合ったり助け合ったりしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された際には日々の様子を負担にならないように伝えたり情報を共有し協力をして頂きながら共に本人を支えていく関係を築いていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りや電話での会話ができるように支援したり面会の方と気兼ねなく居室で過ごせるように支援している。入居前に利用していたかかりつけ医との関係が途切れないよう支援している	ホームに入所したことを知って近所の方が訪ねてきたり、知り合いから年に2回程手紙が来たりしている。馴染みの美容院や診療所に職員が連れて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く見守り情報を共有し、性格や個人の気持ちを尊重しながら利用者同士が無理なく関わりあえるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々電話で退去後の様子を尋ねたり、気楽に相談してもらえような関係作りをしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者さんの態度や会話の中から思いの把握に努めている。又、職員間で情報を共有し把握に努めている	利用者個々の日頃の状態をよく観察しており、何がしたいのか、何がしたいのかを速やかに察知するよう、思いの把握に努めている。把握した思いは職員間で共有するように努めている。	直ぐに実現できる『思い』を把握して叶えている事例が多くある。時間がかかったり、計画的に進める必要のある『思い』を介護計画で取り上げ、実現して行く工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族から生活歴等聞き取りを行いカルテに個人情報として記入してあり把握に努めている。カルテに載っていないくても日常の会話の中からいろいろ教えてもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態等は介護記録、申し送り、カンファレンス等で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日常関わる中で希望や意向を聞き反映できるように努めている。計画作成日にはモニタリングを行い意見を交換しながら現状に即した介護計画を作成している	管理者・職員で情報収集し、計画作成担当者が計画を立て、ケアマネジャーが家族に説明している。その結果、家族アンケート『介護計画の説明』では回答者全員が満足(ややも含)と答えている。	前項(23項)で把握した叶えて欲しい思いを叶える介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや個別の介護記録により情報の共有をしている。利用者さんの変化には職員の話し合いで対応等を検討しながら実践に活かし介護計画の見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのニーズに合わせ、ご家族の協力を得ながら外出や外泊を試みたり買い物支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防等地域の資源等を活用できるように連携をとっている。又、ボランティアや保育園等の来訪を受け入れ楽しく生活できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った病院での受診を支援している。かかりつけ医の采配により適切な医療が受けられるよう、病院・事業所との関係作りもしている。	殆どの利用者は入居時にかかりつけ医を協力医に変更している。ホームへ往診に来てくれる従来のかかりつけ医もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に戸惑う時は協力医に相談をしたり、週に1回看護師が出勤する時に相談したりアドバイスを貰ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報を交換しながら早期の退院につながるよう病院関係者とは連絡を取り合い、密な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してくると終末期の話、また、今後の方針に関してはご家族様の気持ちを大切にしながら、今後の方針を共有しながら関係者にも相談し支援に努めている。	管理者は、基本的に家族・医師の協力があれば看取りに取り組む考えである。職員ヒアリングでは、『ここまで見てきた、ぜひ最後まで看たい気持ちで取り組んだ』『最後はグッと来るものがあつた』と取り組んだ事に納得の言葉もあつた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、ホーム内で講習を行なって貰ったり、個人的に講習を受けたりしている。急変に立ち会った職員もおり、実践力は身につけている。9年程前から職員1名が応急手当普及員となり活動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、職員の少ない夜間想定での避難訓練を実施し、消防署に報告している。アドバイスを貰うこともある。	年2回、夜間想定で消防訓練・避難訓練を行っている。火災発生を想定して火災報知器を鳴らし、全員避難するのに12分を要した。11月の運営推進会議では、防災に関して議論して行く予定である。	夜間の災害発生時には、地域の方々の協力が不可欠である。運営推進会議の議題として取り上げ、地域の協力体制の構築を具体化される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの名前呼び方、言葉使いや接遇については人格を尊重した対応に努めている。排泄の失敗等は他の利用者さんに気付かれないように又、本人も傷つかないように対応を心掛けている	職員は利用者を年長者として尊敬し、さりげない介護を実践している。トイレ・入浴時の戸締り励行、入浴時にタオルを用いて羞恥心への配慮、利用者の呼称(さん付け)などに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で本人の思いや希望を尋ねた時に言い表しやすいような雰囲気作りに心掛けたり自己決定ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん一人ひとりのペースを把握しており無理強いくことなく気持ちを尊重し希望に添えられるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った物や本人の希望の服を選んだり産毛剃り等身だしなみの支援をしたり化粧品や整髪料でおしゃれを楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて献立の中に取り入れられたり行事食では普段食べれない物を一緒に作って食べたりしている。日曜日の昼以外は食器拭きの片付けをして頂いている	一人ひとりの好みを把握し、食事作りに活かしている。『力量・要望』に応じて下準備・下膳・食器拭き等の片付けの協力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量の把握や状態に応じてお粥、刻み食等の食事の支援をしている。水分制限がある利用者さんには1日の摂取量をバランス良く配分して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや介助をして清潔保持に努めている。入れ歯洗浄剤を定期的を使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排尿、排便の確認や排泄パターンを把握している。タイミングを見計らいトイレへの声かけ、誘導をしている	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。利用者個々に合わせた声掛け・誘導を行い、結果として失禁が減少し、リハパンから布パンツに改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れた献立作りや体操、歩行運動を心掛けている。排便パターンにより薬にて排便を促す利用者さんには薬の提供をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まってしまうが希望されれば入浴できるように努めている	一日置きを基本に利用者の入浴希望に可能な限り対応し、入浴拒否には無理強いせずに柔軟に対応している。季節感を味わう『柚子湯・菖蒲湯』等の工夫をし、楽しく・ゆったりした入浴になるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こたつやソファで休息したりベットで休まれる方もいる。居室は個室になっており心地良い室温で休めるように温度調整し自分だけの空間で安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書により一人ひとりの薬の目的を確認し服薬の支援をしている。薬が変わった時は特に副作用等の症状について注意深く観察するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの花の世話や畑の手入れや縫い物等自分の役割として張り合いを持って過ごされている。家族が差し入れたお菓子等を居室で食べることを楽しみにしている方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行きたいとの希望がある場合は出掛けられるように努めている。又、利用者さんの気持ちを家族に伝え外出できるように努めている	日常的な外出機会として、ホーム周辺の散歩、畑の手入れ、買い物、駐車場での外気浴等があり可能な限り外気に触れる様に心掛けている。地域行事(文化祭・フェスティバル・町民大会等)に参加し、季節毎の花見やもみじ狩りにも出かけている。	家族アンケートで最も厳しい評価を受けた項目である。家族の望む外出支援と現状認識にズレを感じる。利用者の外出状況(散歩・外気浴含め)を、より理解しやすく伝える工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者さんは財布を持っていて買い物の際は自分で支払いをされている。ホームで預かっている方々でも買い物の時はお金を渡し本人が支払う機会を作るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者さんは自由に電話ができるように支援している。他の方も希望があれば電話で話せるよう支援したり手紙の受け渡しをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花や壁面飾りで季節感を取り入れるよう工夫している。光や温度は利用者さんに合わせて調節している。テレビや音楽の音量も時間帯によって調節して居心地良く過ごせるようにしている	利用者の集まるリビングには落ち着いた雰囲気があり、季節感を出すように四季折々の花や作品が壁に飾られている。台所・居間には死角がなく、利用者を見守りやすく、台所からの匂いや音が感じられ「家庭的な」雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブルと椅子、籐のベンチ畳の間には堀りコタツとソファがありそれぞれがテレビを観たり新聞を読んだり談話をしたり等思い思いの場所で過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や冷蔵庫、扇風機、テレビ、家族の写真等があり居心地良く過ごせるように工夫している	使い慣れた筆筒・テレビ・冷蔵庫・小物・写真等を持ち込んだ居室、趣味の本や習字道具・化粧品・等を持ち込んだ居室、余り飾らないシンプルな居室等、一人ひとりの個性溢れる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがあり身体機能に合わせて歩行やシルバーカー、車イスの歩行もできる空間を確保している。身体状況に合わせてベットの高さを調整したり手すりを付け安全に生活できるように配慮している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300246		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家 2号館		
所在地	愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字中久田10-7		
自己評価作成日	平成28年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JiyouyoCd=2376300246-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは151号線沿いでとてもわかりやすい、周辺には商店街・保育園・イベント広場などがあり、とても立地条件の良いところにあります。

利用者様の個性が十分発揮できるよう個々の利用者様を十分理解し、大切にします。まずは利用者様が一番・いつも利用者様が中心です。

ホームの理念通り利用者様の毎日が、のんびり・ゆったりした生活が出来るよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちが作った理念「のんびりゆったりと暮らす」そんな理念を元に、まずはゆったりと生活出来るよう共有し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食、地域のイベント等に利用者さんと一緒に出掛け交流している。畑仕事の際に近所の人達と会った時は挨拶を交わしたり会話をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で様々な取り組みや支援等の内容を説明し、理解を頂いている。ホームの新聞「ありのまんま」で活動内容を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の条例により3か月に1回の運営推進会議にて運営状況を報告し、意見を聞きます。また、そこで出た貴重な意見などサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等に協力してもらったり、メールなどの利用で密に情報交換をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人体制以外は玄関やユニット間の施錠はしていない。AA課程(施設内研修)で身体拘束について学ぶ機会があり、拘束をしないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ある内部研修(職員会議等)で、虐待のことは勉強しています。虐待はあってはなりません。防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、内部研修等で学んだり、実際に活用されていた利用者様もおられ、関係者とは連絡を取り合う状況にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が主に携わっていますが、説明を十分行ない理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議に参加して頂いたり、利用者様にも計画作成時等に意見を頂き、運営等に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議があり、その場で自由に話が出来るような環境作りをして、職員の意見も参考しし、業務等に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には支援を行ない、向上心を持って働けるよう対応を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に12回の内部研修があったり、他市町村等の外部研修にも積極的に参加できるように勧め、いろいろな研修確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村等主催の研修に参加したり、本部での研修にて同業者との交流をし、質の向上をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に当たり、本人と出会いグループホームの生活について不安に思っている事や要望等聞き本人の気持ちや思いを受け安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とご家族の生活感や相性等伺ったり今までの困りごとこれからの要望等聞き取り関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に当たりその人のその時必要なサービスを見極め家族とも相談して歯の治療を進めたり買い物に同行したりなど他のサービス利用も含めた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者さんと掃除をしたり、散歩や買い物等を行ったりと一緒に暮らして家族のような関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を聞いたり本人の要望を取り入れたりしてより良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自分知人や近隣の方との出会いや馴染みの場所に出向いたりしていい関係が続けられるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性のいい人同士が隣り合うように席替えをしたり孤立しないように関わり取りもちをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも本人の経過を尋ね家族との相談に乗ったり		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いが強くて危険を脅かす様ときは気持ちを他に向こう様に対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	畑の好きな利用者や書道の好きな利用者等各々の生活歴や今までの生活環境等を把握して対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自力で歩行可能な方車いすの方意思決定できる方出来ない方等現状の把握に努め対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医等と話し合い、それを元に日常生活において本人の状態・体調・趣味等交えて現状に即した介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の介護記録を書き、体調や個々の気付きは詳細記録に記入している時には、ミニカンファを開いて情報の共有や意見交換をし、実践に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得て外泊外出の支援をしお孫様や奥様に会うなどの柔軟な支援、に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みのお店に買い物へ行ったり地域の方と触れ合える催し物などに参加して楽しみのある暮らしの支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った病院での受診を支援している。かかりつけ医の采配により適切な医療が受けられるよう、病院・事業所との関係作りもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に戸惑う時は協力医に相談をしたり、週に1回看護師が出勤する時に相談したりアドバイスを貰ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報を交換しながら早期の退院につながるよう病院関係者とは連絡を取り合い、密な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してくると終末期の話、また、今後の方針に関してはご家族様の気持ちを大切にしながら、今後の方針を共有しながら関係者にも相談し支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、ホーム内で講習を行なって貰ったり、個人的に講習を受けたりしている。急変に立ち会った職員もおり、実践力は身につけている。9年程前から職員1名が応急手当普及員となり活動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、職員の少ない夜間想定での避難訓練を実施し、消防署に報告している。アドバイスを貰うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や言葉のとらえ方など見極めその人に合った言葉かけ対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できない人には声掛けや寄り添うことで本人の気持ちを汲み取るように関わることを大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の趣味や興味のあるものを聞き出しその人の希望に添うように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときは特に本人に着ていくものを選んで頂いたりまた、自分で出来ない方にはおしゃれなものを提供し髭や爪の確認対応をして整容面でも気持ちよく過ごして頂ける対応をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理や食器拭きをされたり各々の力量で職員とコミュニケーションをとりながら楽しく行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を取り入れたり消化の良い物を献立に取り入れたり栄養面でも形態も量もその人に合わせ対応している水分はしっかりとって頂く様声掛けし飲んで頂き水分制限のある方は医師の指示で飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし自力で歯磨きができる方はやって頂き出来ない方は義歯を外して職員が磨き本人には口をすすいで頂いている毎週1回ポリドントで義歯を綺麗にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行かれる方は見守りをし自分で排泄の訴えが出来ない方にはその方の仕草を見極めトイレ誘導を行なっている排泄チェック表を活用し排泄のパターンを生かして対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行なっている料理で繊維質のおかずや乳製品を取り入れるなどして各々に応じた形態にして摂取できるように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気の合う利用者様同士一緒に入浴できるように支援したりゆったりお話ししながら入れるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の体調を見極め休む時間を作ったり温度調整や換気をしたり布団の調整を行ない寝こちよく休んで頂けるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し正しく服薬できるように支援している医師や薬局等の連携をはかり症状の変化を相談し薬の確認服薬に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の好きな利用者様には草取りや水まきなど本人のやりたいように張り合いある事をして頂いている。また本人の好きなお菓子など居室でゆっくり食べ気分転換して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くから帰省したお孫さんに出会いにご家族の送り迎えで自宅に外出したり、衣類や履物を職員と近くのお店に買い物したり地域のイベントにも参加出来るように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お守り代わりに自分のお金を持っている方もいてその中から自分で支払いをしたい場合は、本人が気持ちよく使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の能力等あり自分で携帯を使用でき、ご家族に携帯電話をかけられる方やメモを書かれる方等の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには観葉植物がありトイレ、汚物室などには消臭剤や換気をしている居室やフロアにはエアコンがあり温度調節、空調調節をしている夏には日差しよけに遮光カーテンがかけてあり居心地よい工夫がされている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室で一人になれたり、気の合った利用者様同士の席をそばにしたり、テレビの回りのソファでくつろぐ空間があり居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や自分の家のタンス自分の好みの小物バック等持ってこられ居心地良く暮らせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・フロアの自分の席・居室等わかる所は自分で移動して貰っている。また、環境整備をして足回りの危険回避を行なっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300246		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家 3号館		
所在地	愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字中久田10-7		
自己評価作成日	平成28年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2376300246-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは151号線沿いでとてもわかりやすい、周辺には商店街・保育園・イベント広場などがあり、とても立地条件の良いところにあります。

利用者様の個性が十分発揮できるよう個々の利用者様を十分理解し、大切にします。まずは利用者様が一番・いつも利用者様が中心です。

ホームの理念通り利用者様の毎日が、のんびり・ゆったりした生活が出来るよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちが作った理念「のんびりゆったりと暮らす」そんな理念を元に、まずはゆったりと生活出来るよう共有し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食、地域のイベント等に利用者さんと一緒に出掛け交流している。畑仕事の際に近所の人達と会った時は挨拶を交わしたり会話をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で様々な取り組みや支援等の内容を説明し、理解を頂いている。ホームの新聞「ありのまんま」で活動内容を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の条例により3か月に1回の運営推進会議にて運営状況を報告し、意見を聞きます。また、そこで出た貴重な意見などサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等に協力してもらったり、メールなどの利用で密に情報交換をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人体制以外は玄関やユニット間の施錠はしていない。AA課程(施設内研修)で身体拘束について学ぶ機会があり、拘束をしないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ある内部研修(職員会議等)で、虐待のことは勉強しています。虐待はあってはなりません。防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、内部研修等で学んだり、実際に活用されている利用者様もおられ、関係者とは連絡を取り合う状況にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が主に携わっていますが、説明を十分行ない理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議に参加して頂いたり、利用者様にも計画作成時等に意見を頂き、運営等に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議があり、その場で自由に話が出来るような環境作りをして、職員の意見も参考しし、業務等に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には支援を行ない、向上心を持って働けるよう対応を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に12回の内部研修があったり、他市町村等の外部研修にも積極的に参加できるように勧め、いろいろな研修確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村等主催の研修に参加したり、本部での研修にて同業者との交流をし、質の向上をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり訪問することで、入居前から関係作りをしている。入居後は他の利用者様との間に入り、共通の話題などをすることで少しずつ環境に慣れて頂けるよう橋渡しをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている点を聞き出し何を求めているのかを聞き出し、サービスに反映させるように努めている。入居後暫くは電話で様子などを伝えたりして、ご家族様の不安の軽減に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今おかれている状況や状態、過去に遡ったご本人の情報を知り、希望や要望に沿った対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その場その時を共有する同じ人として、一日を穏やかにありのまま生活できるよう接している。生活の中で出来ることを共に行ない、良好な関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には現状を理解して頂けるよう随時話をし、必要なこと(面会や外出等)があれば協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時は、「馴染みの店や知り合いがいる店などに立ち寄るようにしている。また、ホーム内でも交流を持てるよう、他号館の知り合いと会話を楽しんで頂けるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性や心身の状態を考えて席を決め、気楽に話ができるようにしている。また、良い関係を保てるよう橋渡しをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々電話で退去後の様子を尋ねたり、気楽に相談して貰えるような関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際は本人に同席して貰い、希望などを聞いている。また、普段からどうしたいのかを会話の中で聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入居時にご家族様より聞き取りをしているが、細かくはわからないことが多い。日常生活の中での会話で聞き取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去との比較を行ない、変化を観察することで現状を知るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回以上のモニタリングやミーティング、状態の変化等により必要に応じて随時ミニミーティングを開いて情報共有をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入、特別なことがある場合は詳細記録に記入をし、職員間で情報共有している。今必要な情報でもあり、将来必要となる情報にもなる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズにあわせ、ご家族様の協力を得ながら外出や外泊をしたり、買い物の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの店や馴染みの人がいる場所に出掛ける、興味のある場所に出掛ける、懐かしい場所に出掛けることで、普段とは違う会話をしたりして楽しい時間を持てるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った病院での受診を支援している。かかりつけ医の采配により適切な医療が受けられるよう、病院・事業所との関係作りもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に戸惑う時は協力医に相談をしたり、週に1回看護師が出勤する時に相談したりアドバイスを貰ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報を交換しながら早期の退院につながるよう病院関係者とは連絡を取り合い、密な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してくると終末期の話、また、今後の方針に関してはご家族様の気持ちを大切にしながら、今後の方針を共有しながら関係者にも相談し支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、ホーム内で講習を行なって貰ったり、個人的に講習を受けたりしている。急変に立ち会った職員もおり、実践力は身につけている。9年程前から職員1名が応急手当普及員となり活動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、職員の少ない夜間想定での避難訓練を実施し、消防署に報告している。アドバイスを貰うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉を上手く理解できない方もおり、単語を並べるだけのこともある。その方にあった声掛けでの対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から好きなことが言える関係や環境を作るように心がけている。自己表現が上手く出来ない方には、その方にとってわかり易い表現を用いて思いを聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示がうまく出来ない方もおり、すべてが希望ではないが、何をしたいかなどは聞いて可能な限り希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ洋服を持参して頂いたり、希望の化粧品や衣類を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何か食べたい物があるか希望を聞き、可能な限りメニューに取り入れている。食材の下準備や食器の拭き上げなども行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜が多いメニューで栄養バランスを考えている。減量や水分制限のある方はそれを考慮して提供している。水分摂取は食事とお茶の時間で確保し、それ以外は欲しい時に飲めるよう準備がしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをしている。自分で出来る方は自分でして頂き、義歯に汚れが残っていないかチェックをしている。ひとりひとり状況が違うのでその方にあったケアをしている。最低週1回は義歯の消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて概ねパターンを把握しており、声掛けや誘導でトイレでの排泄をして頂けるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	発酵食品や、繊維質のものを少しでも多く食べて頂けるようメニューを工夫している。便秘体質で便秘薬が処方されている方は、排泄チェック表用いて薬を飲んで頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたくないという時は無理強いせず、入りたいという時は毎日でも入って頂けるようにしている。個別でゆったりと入れる時間設定にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースで休んで頂いている。居室の空調や衣類・寝具の選択など、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や用量までは理解しきれていないが、処方されている薬については理解に努めている。身体的に変化がある場合、主治医にその変化を報告し早めの対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることで好きなことはどんどんして頂き、体操やレクリエーションもその日の状況で内容を決めて行なっている。外気浴も気分転換に良いので、短時間でも出られる日は出るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候に左右されるが、希望される時は散歩やドライブなどに出かけている。また、イベントなどがある時は希望される方はお連れしたり、職員が出かける時に気分転換で同伴したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に持っていたい方には高額ではない程度に持って頂き、希望の物があれば職員が購入しに行くこともある。ご自分で管理できなくなってきたら預かって管理する場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある場合、可能な限り電話の取次ぎをしている。また携帯電話を持たれている方もおり、自由に連絡が取れるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物や、行事の写真の掲示で季節感を感じて頂けるようにしている。また、夏場は緑のカーテンに野菜を用いている。屋内は不快感のないよう空調管理に心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の相性などを考慮して席を決めて談話しやすくしたり、ひとりで居たい時は居室やソファなどその時の気分で好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物やなじみのある物をもってきて頂き、少しでも居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、必要な物がある場合、ご家族様に自宅からもってきて頂いたり、ご本人と買い物に出ることもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などは場所の表示をし、行きたい場所に自分で行ける工夫をしている。また、動線の安全確保のため環境整備をしている。		